

(別記)

令和2年度御代田町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町は年間を通して冷涼な気候条件を生かし、レタス、キャベツ等、葉物野菜の転作作付けが盛んな地域であるが、農業従事者の高齢化等により農家戸数が減少するとともに、不作付地も増加してきている状況にある。このことから、主食用水稲の作付面積を維持する中で、野菜に加え地元ニーズが高まってきているそばや大豆等の調整水田等不作付地への転作推進により、水田のフル活用を図り、不作付地解消を実現していく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

米の生産数量目安を考慮し、必要に応じ他品目作付けへの転換を進める中で、高品質米の生産・安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米 なし

- ア 飼料用米
- イ 米粉用米
- ウ 新市場開拓用米
- エ WCS用稲
- オ 加工用米
- カ 備蓄米

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、種子更新の実施により、単収の増加・品質の向上を図る中で、不作付地の解消を進め生産面積を拡大し、水田フル活用を目指す。麦は商工会が推進する郷土料理「おにかけうどん」の地元産の原材料として地産地消のニーズから、更なる推進を図る。大豆についても、地産地消のニーズから地元のみそ工房への供給の推進を図る。

(4) そば、なたね

そばについては、種子更新の実施により、単収の増加・品質の向上を図る中で、不作付地の解消を進め生産面積を拡大し、水田フル活用を目指す。現在、作付されている品種は信濃1号が大半であるが、韃靼そばのニーズも高まっていることから更なる推進を図る。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

冷涼な気候を活かした野菜の栽培がさかんであり、市場評価も高い。産地交付金を活用し、レタス類、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリーの4品目を軸に、その他野菜も含めた生産面積を向上させ、水田フル活用をめざす。

(6) 畑地化の推進 なし

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	77.8	77.0	77.0
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	0.8	0.9	0.9
大豆	1.3	1.4	1.4
飼料作物			
そば	12.5	13.0	13.0
なたね			
その他地域振興作物	47.3	47.6	47.6
野菜			
・野菜4品	45.8	46.0	46.0
・その他野菜	1.5	1.6	1.6

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	そば・麦・大豆	そば、麦、大豆の種子更新による生産面積増加への取組み	種子更新による生産面積の増加	(2019年度) そば 11.4ha/108kg 麦 0.6ha/128kg 大豆 1.1ha/34kg	(2020年度) そば 11.5ha/109kg 麦 0.7ha/129kg 大豆 1.2ha/35kg
2	野菜4品目(レタス類、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー)	地域振興作物(野菜4品目)への助成	生産面積の増加	(2019年度) 45.8ha	(2020年度) 46.0ha
3	その他野菜、花き・花木、果樹	地域振興作物(その他野菜等)への助成	生産面積の増加	(2019年度) 1.5ha	(2020年度) 1.6ha
4	野菜、花き・花木、果樹(整理番号2.3の対象作物)	高収益作物等拡大加算	生産面積の拡大	(2019年度) 0.7ha	(2020年度) 0.6ha
5	そば	そばへの助成	生産面積の増加	(2019年度) 12.5ha	(2020年度) 13.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。